

そうか考えてみる。

- 公民館等で学ぶことの意義（良さ）に合致しているか。
（みんなで学び、励まし合ったりしながら活動できる。単に個人のスキルアップのみとならないように。）

【2. まずは、情報収集！】

- その地域の課題を探る。
 - ・統計的データで
国や県、市町村の統計（市町村のHPなどより）
 - ・一般的な課題から
学習者の要求
必要課題（社会構造の変化への対応、地域の課題、社会的な課題、人権などの諸課題）
現代的な課題（健康、家族、消費者問題、地域づくり、まちづくり、高齢化社会、男女共同参画、ICT活用、環境、エネルギー等）
 - ・自分の足で
フィールドワーク、対象者からの聞き取り、研修会への参加等
⇒統計に表れない、生の声で調べる。つながりづくり。
- その地域の資源を調べる。
 - ・地域の歴史を調べる
 - ・文献や施設、その道の第一人者的な住民について調べる。
- トレンドを調べる。
 - ・メディア（新聞、雑誌、テレビ、インターネットなど）で何が取り上げられているか。

※情報は無限にあるので、ある程度そろったら次の段階へ進むようにする！

【3. 対象（ターゲット）と目標を決めよう！】

- 「誰でもいいから」ではなく、具体的なイメージを持つ。
（「その人でなければ・・・」が、来てほしい人の心を突き刺す！）
- 子ども世代、青年層、高齢者層などを決めると、プログラムの内容を決めやすい。
- 講座を通して、「地域の教育力を向上」「地域の人々の絆を高める」「地域に興味を持ってもらう」「若者にもっと地域にかかわってもらう」「地域を活性化させる」などの公民館等ならではの目標を定める。
- 市町村・教育委員会、国、県等のプランを意識。
（すぐに大きな計画が達成できなくても、達成にするための近づくための講座という視点で。）

【4. 仲間づくりは大切！】

○公民館等事業では特に、担当者が一人で何でも準備してしまうのではなく、なるべく多くの人たちに関わってもらうことが大切。(参加者・参画者の主体性を高める体制づくりが、地域づくりにもつながる。)

○「どんどん人を巻き込む！」

- ・自分一人では困難なことに大勢の力を結集させて目的を達成する。
⇒共感を得たり、説得したり、関係者への声掛けしたりすることが必要。

「あなただからお願いしたい！」

「あなたがやってくれたら本当に助かる！」

- ⇒日頃からの信頼関係の構築、信用されるような声掛けが必要。

「最近、がんばってますね！」「いつも遅くまでお疲れ様です！」

「何か、お困りのことはないですか。」

【5. 要項のイメージづくり！】

○参考となる事例を集める。

- ・インターネットで全国の公民館等の講座募集、活動報告、館報を検索してチェック。(目に留まったものには、電話で直接詳しく聞いてみることも有効。)
- ・文部科学省が毎年表彰している優良公民館の特色ある取り組み事例を参考とする。

↓↓↓

https://www.mext.go.jp/a_menu/01_1/08052911/001.htm

- ・民間のカルチャーセンターの講座も参考にする。
(ただし、単に個人のスキルアップではなく、公民館ならではの「みんな学び」となるように留意。)

○季節に合ったタイムリーな内容・企画に。

- ・春
ひなまつり、ホワイトデー、花粉症、卒業式、新生活、花粉症、お花見、ゴールデンウィーク、母の日、梅雨・・・
- ・夏
父の日、七夕、アウトドア、夏バテ、海、夏休みと宿題、納涼、花火、お盆・・・
- ・秋
防災、食欲、スポーツ、読書、敬老の日、孫の日、十五夜、ハロウィーン、紅葉・・・
- ・冬
風邪予防、忘年会、クリスマス、大掃除、お正月、受験、成人式、節分、バレンタインデー、温かい料理・・・

○多くの参加動機をくすぐる内容に。

「自分なら、どういうきっかけがあれば参加したくなるか」をイメー

ジする。「健康的になりたい」「仲間を作りたい」「余暇を楽しみたい」「技術を習得したい」「このことについて知りたい・交流したい」

- 参加のメリットをつくる。
 - ・ 娯楽や情報があふれている現在は、ありきたりの講座ではなかなか人が集まらない。
 - ⇒「得する。ためになる。楽しめる。」(3Tの法則と言われるそうです)を検討する。
 - ⇒著名人の出演・・・は難しくても、何か協力を得た内容やその他希少性の高い内容で企画。

- あえて、不完全な運営で企画してみる。
 - ・ あまりにも完璧な内容・運営の講座としてしまえば、参加者はお客様になってしまう。セルフサービスの部分を残し、主体的に参加し、改善点を提案してもらいながら運営にも参画してもらうことで満足度を高めることにもつながる。(ただし、講座そのものが魅力的である必要あり。)

- 「ワークショップ(熟議)」の手法は有効！
 - ・ 参加者が講師の知識や情報を受け止めるだけでなく、一人一人が主体的に学習できる。
 - (「意見交換する」「調べる」「発表する」「体験する」(参加型体験学習))
 - ⇒お互いの学び合いから、「気づき」や「発見」が大切にされ、自己理解と豊かな人間関係を育む力、積極的に課題解決に参加・行動していく力につながる。

【6. ここで、講師を選ぶ！】

- 社会教育に理解のある講師を選ぶ。
 - ・ その道の専門家が必ずしも講座の最良の講師とは限らない。
 - ・ 参加者の、話や持っている力を引き出そうとしてくれる方。
 - ・ 社会教育や公民館等、その地域への理解がある方。
 - ・ 講座当日だけでなく、事前に相談にのってくれたり、事後も発展を支援してくれたりしそうな方。

- 講師を探す方法は？
 - ・ 新聞、雑誌、書籍、インターネットの情報から選ぶ。
 - ・ 自治体内で、その分野に近い部署に尋ねる。
 - ・ その分野の団体・研究機関などに問い合わせる。訪問する。
 - ・ 類似の講座の情報を得る。
 - ・ 他市町村の公民館等に問い合わせる。
 - ・ 国の社会教育実践研究センター、県の生涯学習推進センター(当センター)に問い合わせる。

★生涯学習電話相談「マナビィコール」★

研修会・講師情報等のお問い合わせ等は下記までお気軽にどうぞ！

当センターで行っている「学び」全般の相談ダイヤルです。

↓↓↓↓↓

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/soudanshien/manabiikoru.html>

【7. 講座の骨子を組み立てる！】

○いわゆる「5W2H」を決定し、要項にまとめる。

- ・ W H E N (いつ)
開催日(予備日)、期間、時間帯(平日 or 休日、午前・午後・夜間)
- ・ W H E R E (どこで)
会場 公民館等以外の場所となることも
- ・ W H O (だれに)
参加対象者
- ・ W H A T (何を)
講座内容、アピールポイント、今までとの違い
- ・ W H Y (何の目的で)
なぜ、この講座を実施するのか
- ・ H O W T O (どのような方法で)
学習方法など(講義形式、演習・ワークショップ形式、体験活動)
- ・ H O W M U C H (いくらで)
予算の試算、財源・費目の確認、不足分の手立て(連携・協力する団体など)

※本内容は、公益財団法人全国公民館連合会発行の「月間公民館」(令和3年度7月号)の記事(同編集部作成)を参考とさせていただきました。当センターのホール前の書架には、各種社会教育・生涯学習関係の雑誌・広報誌等がバックナンバーも含めて配架されていますので、お越しの際にはぜひご覧ください。

★-----★

各種研修会の開催要項を掲載中です！

★-----★

【当面の研修会等実施予定】

- 10月26日(火)～27日(水)
放課後児童支援員研修(センター2班後期)
【オンライン形式(参集せずに開催)】
- 11月 6日(土)～ 7日(日)
高校卒業程度認定試験
- 9日(火)～10日(水)
放課後児童支援員研修(盛岡後期)
【オンライン形式(参集せずに開催)】
- 12日(金) 人づくり・地域づくり関係職員等研修講座(県北)
- 22日(月) 地域学校協働活動推進員(コーディネーター)研修会
- 12月 6日(月) 子育て・家庭教育担当者研I【延期後】
- 7日(火) 地域安全防災研修会【延期後】

